

教 育 長 様

校番 028 御調 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
令和2年度 報告書****1 研究の概要**

研究の目標

本校で身に付けさせたい7つの資質・能力やルーブリックについて、教員への周知徹底と生徒への意識付けを引き続き行う。また、学校全体で身に付けさせたい資質・能力を柱に、各教科・科目、「総合的な探究の時間」、学校行事等を整理し、それらをつなぎ合わせて、教科横断的なカリキュラム・マップを作成することで、生徒の資質・能力の伸長を図る。

総合的な探究の時間等の取組内容

① 生徒の状況把握及び分析

自己評価シートの活用

特別活動等で使用する各行事の評価シートについては、生徒が自分の能力に応じて目標を設定しやすくするため、資質・能力を各自で選び、記述する形式を引き続き用いた。また「総合的な探究の時間」の評価基準を、学校全体で身に付けさせたい資質・能力のルーブリックに沿って4段階に再設定したことで、学校の教育活動全体を通して生徒の資質・能力の変容を見取りやすくした。それらの評価シートは、まとめてポートフォリオ化しておくことで、生徒は自分が身に付けた力を可視化し、自分自身の成長や課題を振り返ることができ、次の目標を立てる際にも活用した。

② 育成する資質・能力の設定（共有）

教科横断的な取組のための工夫

本校生徒に身に付けさせたい資質・能力を学校全体で共有し、学校の教育活動全体で育成していく意識を高めるため、教科ごとの資質・能力ベースの単元計画を作成した。各教科で育成すべき専門的な知識・技能に加え、単元を通してどのような資質・能力を習得させたいかを一覧にまとめ、それを全体で共有し、教科間の内容かつ資質・能力の繋がりを明らかにした。また、その資質・能力を適切に見取るためのパフォーマンス課題の作成と実施を行い、学校の教育活動全体で資質・能力の育成を図る取組を実施した。

③ 資質・能力の育成に向けた各種計画の作成

生徒を基点としたカリキュラムの評価と修正

本校では、「総合的な探究の時間」や特別活動等を中心に置き、生徒の自己評価やアンケート等を分析し、生徒の変容を見取りながら、カリキュラムの開発や修正を行っている。生徒がバランスよく7つの資質・能力を習得できるよう、補強すべき力やその力の育成を目標に置き単元計画を見直ししながら、今後の各種計画を修正し改善している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、特別活動等や「総合的な探究の時間」で多くの活動が制限されてしまったが、実施できる範囲で単元計画の修正や改善を行い実践した。

全体研修の実施

本校生徒の現状を見取るため、全教職員対象の研修会を行った。生徒が既に身に付けていると思われる力、これから身に付ける必要のある力を整理・分析し、本校で身に付けさせたい7つの資質・能力に分類した。そして、学年、教科、分掌の視点から、生徒の力を高めるための方策について考え、今後の各種計画の作成に活用した。

④ ③に基づく教育活動の実施状況

「総合的な探究の時間」における教育活動の見直し

地域と自らのつながりだけでなく、世界や社会とのつながりや自分自身との関りについて考え、広い視野を持った人材を育成するため、社会に開かれた教育課程を意識し、地域内外の企業や他校との連携、交流を行った。今年度は、SDGsの取組を行っている企業と連携し、国際問題や環境問題について理解を深めさせるとともに、社会

とのつながりについて考える単元を設定した。社会問題を自分事として考え、自分自身が社会で果たす役割を意識させたうえで2年次の実践につなげ、設定されている目標である「地域の活性化」に留まらないより深い学びを目指す。

⑤評価活動（ルーブリック等の活用等）

生徒による自己評価

「総合的な探究の時間」では、マスタールーブリックを基に専用のルーブリックを作成し、毎時間後に振り返りと自己評価を行っている。また、特別活動等においては、行事ごとにマスタールーブリックの文言を生徒に分かりやすいよう修正し、目標設定や振り返りの際に活用している。事前にルーブリックを生徒に提示し、評価の基準や観点を意識させ評価を行うようにした。

教職員による学年末評価

教科や「総合的な探究の時間」のみならず、特別活動等や学級での日々の生活態度の様子等に対しても評価を行っている。年度末に学年主任、担任、副担任で一人一人の生徒の資質・能力をルーブリックに沿って評価し、平均値を取ったものを総合評価として記録している。3年間を通して同じルーブリックを使用し評価することで、生徒の資質・能力の変化や全体としての変容の様子を分析している。

各教科で行うパフォーマンス評価

各教科で行っているパフォーマンス課題を評価する際には、教科ごとにルーブリックを作成したりマスタールーブリックを活用したりしながら評価している。それぞれ設定した資質・能力が単元の中で身に付いたかどうかを見取るため、課題ごとにルーブリックを作成する教科やマスタールーブリックをそのまま活用している教科もある。

⑥ 次年度計画への反映

今年度作成した教科の単元計画を基に、「総合的な探究の時間」や特別活動等とも関連付けたカリキュラム・マップを作成し、資質・能力を柱とした学びのつながりについて明らかにする。また、各教科で行うパフォーマンス課題等で資質・能力を評価するために、マスタールーブリックを基にして各教科のルーブリックを作成する必要がある。全体のマスタールーブリックやその他の教育活動との関連性を持たせるため、基本的な教科のルーブリックの型を作り単元ごとのシラバスに落とし込み、単元内でも指導改善を行うことができるようにする。

成果

「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発

昨年度の課題と生徒の現状を踏まえ、資質・能力の育成に向けて、単元計画と目標の設定を修正し改善した。1年次で新しく設けた単元では、SDGsの観点から世界の課題解決に取り組む企業の取組を学習し、自分と世界の関わりや社会との繋がりについて考え、2年次の御調地域における地域活性化の探究活動に向けて意識を高めることができた。また、2年次の活動を振り返り修正する単元では、休校等による活動の制限と生徒の現状を考慮し、地域の思いや願いを予測し、自分たちの取組が長期的に地域に与える影響等を予測しながら計画を修正する活動に変更し実施した。

各教科における資質・能力育成に向けた取組の実施

「総合的な探究の時間」や特別活動等だけではなく、各教科の中でもバランス良く資質・能力を育成していくため、教科ごとの単元計画を作成し教職員に周知した。これを活用し、内容だけではなく資質・能力ベースで知識を関連付けながら、教科横断的な指導を行う意識を高めることができた。

課題

各教科との資質・能力の繋がり強化

今年度作成した単元計画は、教科ごとに観点や記述の方法が異なっているため、教科間での繋がりが分かりにくくがあった。今後は、全教科で観点を明確にし、同じ形式で修正する必要がある。また、それらを「総合的な探究の時間」や特別活動等と結び付け、カリキュラム・マップを完成させ、学校の教育活動における資質・能力の繋がりを明らかにする。

資質・能力の評価

教科の中で資質・能力を見取るための基本的なルーブリックがないため、学年や単元ごとに評価基準が異なっており、3年間を通しての生徒の変容を的確に見取ることができない。今後は、3年間継続して使用できるルーブリ

ックを作成する必要がある。マスタールーブリックを基に、教科ごとのルーブリックを作成することにより、教員間での指導の目線合わせができ、また生徒の変容も見取りやすい。

次年度の目標（育成する資質・能力）及び取組内容

生徒の実態に合わせた単元やカリキュラムの修正・改善

職員研修で行った本校生徒の実態把握や教職員による年度末の総合評価、また生徒の自己評価を分析した結果、本校で設定した7つの資質・能力のうち、特に3つの資質（「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」）の育成面で課題があることがわかった。これに伴い、マスタールーブリックの文面や到達目標の修正を行い、自己評価の際生徒にとって分かりやすく、自分自身に当てはめて考えやすいよう改善していく。また、来年度の単元計画やパフォーマンス課題を作成する際に、それらの力をどのように育成し評価していくかを研修等を行い確認し、全教職員の共通認識を図り授業改善の意識を高める。

カリキュラム・マップの完成

生徒が身に付けた資質・能力が学校の教育活動の様々な場面で活用され、さら伸長が図れるよう、内容だけでなく資質・能力においても教科間で繋がりを持たせ教科横断的な指導を行っていくため、カリキュラム・マップを作成し全体で共有する。教科だけではなく、コロナ禍における特別活動等も考慮し、「総合的な探究の時間」や特別活動等のカリキュラムも修正し、資質・能力面での学びのつながりを明らかにする。

教科ごとのルーブリックの作成と活用

マスタールーブリックに基づき、教科ごとの資質・能力ベースのルーブリックを作成し、パフォーマンス評価に活用する。「総合的な探究の時間」や特別活動等と同様に、教科の中でも資質・能力の育成を図ることにより、3年間を通して学校の教育活動全体を通して資質・能力を身に付けることができる。また、生徒の変容を包括的に見取ることができ、資質・能力の定着をより適切に評価することができる。